

教員多忙化の現状

- 学校現場では、授業以外の事務作業の増加や、生徒指導・特別支援教育等に関わる課題が複雑化・多様化。運動部活動指導の休日出勤に負担感。
- 社会状況の変化を背景に、新たな教育課題（次期学習指導要領等）への対応が求められている。
- これら「授業以外の仕事」の増加により、教員は多忙化しており、子供と向き合う時間が十分確保できない現状。
- このため、①学校現場の業務改善とともに、②生徒指導・特別支援教育等に関わる課題への対応、③運動部活動指導の負担軽減を進め、教員が子供と向き合う時間を確保することが必要。

多忙化の主な原因と県に求める対応策

■多忙化の要因 教員の多忙化に関するアンケート調査（H26 県教委）

	小学校	中学校	全日制	定通制	特支
①学習指導	22.2%	10.6%	63.3%	-	54.5%
②会議等	25.6%	23.5%	6.7%	-	63.6%
③校務分掌	55.6%	43.5%	46.7%	-	45.5%
④進路指導	-	4.7%	30.0%	-	0.0%
⑤児童・生徒指導	16.1%	28.2%	16.7%	55.6%	9.1%
⑥特別児童生徒対応	18.9%	16.5%	3.3%	33.3%	0.0%
⑦学校行事	22.2%	14.1%	6.7%	11.1%	0.0%
⑧出張・研修会	53.3%	56.6%	6.7%	22.2%	27.3%
⑨研究校・学校課題	8.9%	1.1%	3.3%	-	0.0%
⑩各種調査・アンケート	36.7%	22.4%	3.3%	-	0.0%
⑪部活動指導	-	49.4%	73.3%	11.1%	9.1%
⑫保護者対応	14.4%	9.4%	13.3%	22.2%	27.3%

業務改善の取組状況

(県教委)

- H26年度 多忙化改善ワーキンググループを設置、多忙化の実態調査実施
- H27年度～ 調査・会議等の精選、負担軽減策検討

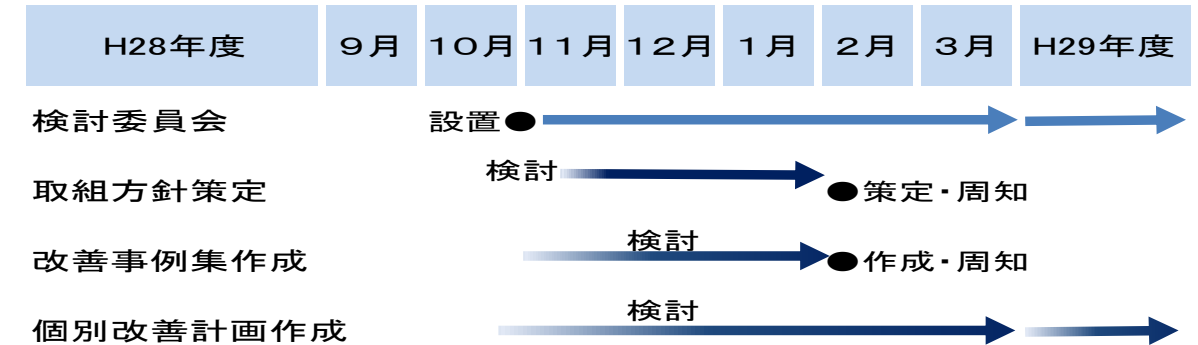
(市町村教委)

- 改善組織設置 9市町村（33.3%、全国35.3%）
- 改善方針策定 0市町村（0%、全国7.0%）

実施施策

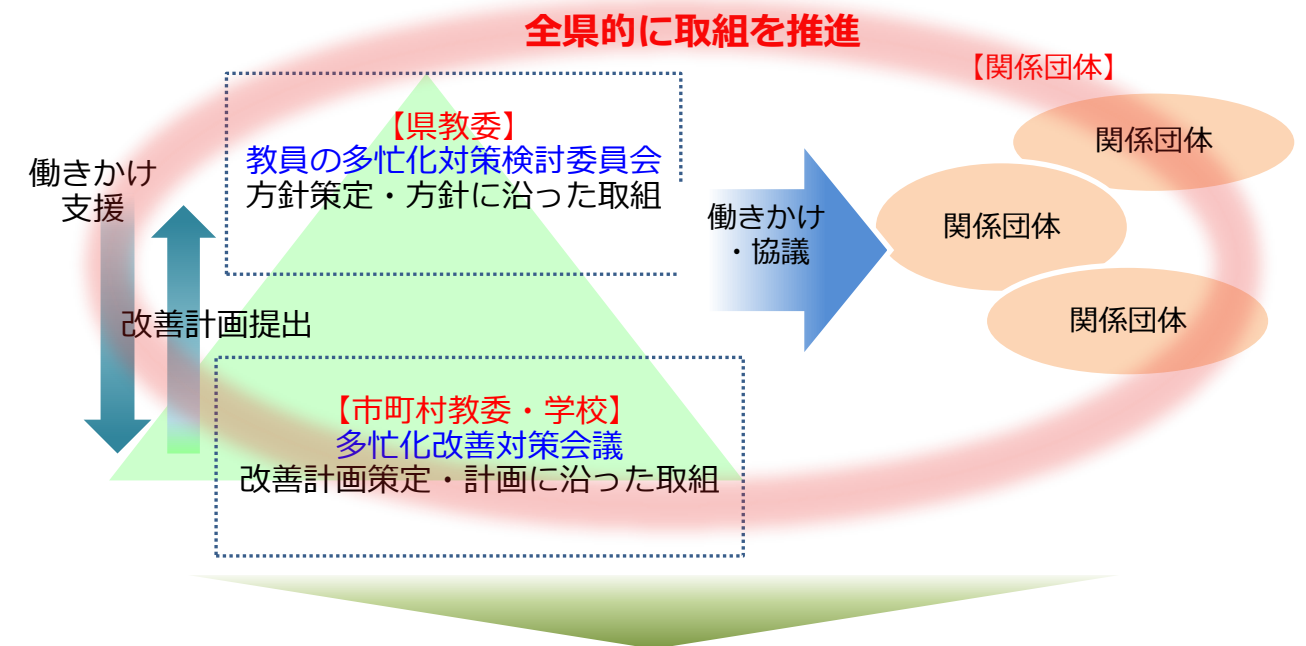
1. 県教委の組織体制整備・取組方針策定

- 新たに、「教員の多忙化対策検討委員会」を設置
※メンバー：教育次長、本庁課室長、市町村教委代表、校長会代表等 ※特定課題はワーキンググループで検討
- 県教委全体の取組方針策定、改善事例集作成（H28年度）



2. 全県的な業務改善の取組推進

- 市町村教委・学校に、多忙化改善のための組織設置
- 関係団体に業務削減協力を働きかけ
- 各主体が改善計画を策定し、取組推進



子どもと向き合う時間を確保